三月二十四日　火曜日　　あの子の為なら頑張れる

八時半起床で、一人、めしを食べる。
休日は部活に、兄貴と一緒に、
いつもよく行った事を思い出す。
「もうこれからは、兄貴とは
一緒じゃないなあ。」
と思いながら、ナップを引っ掛けて、
一人、家を出る。

今日は、ヤムヤム（いやいや）、
ハンドボール引き続けてやる
第一日目である。

もう兄貴は高校卒業だが、今日は
後輩の監督で、学校だろう。
九時半集合だそうだが、この調子じゃ
学校につけば、十時半だろう。

もう中学も終わりかと思いながら、
京阪電車から、鴨川を眺めていると、
水鳥が二羽、一緒に、滑走している。
「この景色もいつまで見られるかなあ。
と、変な感傷にとらわれる。

三条京阪のバス停には、僕一人。
あのにぎやかな、通学ラッシュはない。
あの子もいない。

86　あの子の為なら頑張れる・・・・・・・・・・392

Candy
in the Heart
392

萩原良昭